

Evangelicals と Fundamentalist の 用語における歴史的考察

青木保憲

はじめに

映画『ジーザス・キャンプ』に散見する問題点

ジョージ W. ブッシュ政権第二期時代の 2006 年、一本のドキュメンタリー映画がアメリカで公開された。公開規模はさほど大きくなかった。しかしその内容がセンセーショナルであったため、映画は日本でも紹介され、DVD も発売された。タイトルは "Jesus Camp" (邦題は『ジーザス・キャンプ～アメリカを動かすキリスト教原理主義～』) である¹。

映画は、「共和党ブッシュ政権を支持する「福音派」と呼ばれるキリスト教徒が、現在のアメリカを自分たちの意のままに操ろうとしている」と警告を発する内容となっている。具体的には、とある牧師が主催する小学生向けのサマーキャンプの様子を紹介し、そこで行われている奇異なイベントにフォーカスが当てられている。例えば、若い少年少女がブッシュ大統領の等身大ポスターに手を伸ばし、涙を流しながら、神からの力を受けることができるよう祈りをささげている。別の場面では、中絶を容認している政府機関に対して「悪魔よ退け！」と声高に叫び、政府要人を模したコップに対してハンマーを打ち付けている。このような場面を見せつけられると、確かに「洗脳」の恐ろしさを感じ

¹ DVD『ジーザス・キャンプ～アメリカを動かすキリスト教原理主義～』(株式会社アニプレックス、2006年)

ずにはおれない。そして、一連の活動を陰で操っている福音派からアメリカを取り戻せ、と映画製作者はメッセージを発している。

ここで問題としたいのは、この牧師が実践しているキャンプの中身ではない。劇中に登場するラジオ DJ が、「アメリカをおかしくさせている輩」として、Evangelicals と Fundamentalist を区別せずに用いている点である。さらにこの日本語字幕では、二つを共に「福音派キリスト教徒」と訳し、時には「キリスト教原理主義者」と訳し出す箇所も散見する。

果たして Evangelicals は Fundamentalist と同義なのか？ もし違うカテゴリーであるとしたら、その違いとは何か？ どうして混同されるようになってしまったのか？ さらに訳語の問題として、Fundamentalist を「キリスト教原理主義者」と表現することは、的を射たものであるのか？

ここに福音派 (Evangelicals) をめぐる用語の混乱が存在し、かつ各々に対する訳語の問題が、その混乱をさらに複雑なものにしてしまっている現状を見ることができる。

本論文は、このような用語の混乱を整理し、19世紀後半から現代までの主な事象を取り上げつつ、歴史神学 (主にアメリカ宗教史) の観点から、21世紀の福音派を方向づけることを目的としている²。特に着目しているのは、「福音派」と、福音派が政治化したと言われてきた「原理主義者」との峻別を21世紀の視点で考察することである。1980年代以降、この峻別作業は常に必要だと叫ばれてきた。しかし現在に至るまで未だに明確な回答は為されていないのが現状である。筆者も2012年に上梓した拙著『アメリカ福音派の歴史 聖書信仰にみるアメリカ人のアイデンティティ』では、この辺りをぼかしてしまったことを正直に告白する。

1980年代に曖昧さを内包したままで導き出された「福音派」の定義は、それから30年以上を経る中でどのような質的变化を遂げたのであろうか。この作業を行うために必要なことは、Evangelicals の歴史研究の宿命とも言える用語問題を整理するところから始めなければならない。「福音派」「根本主義」「原理主義」

² なぜアメリカか？ と問われるなら、日本への福音主義の伝播に対するアメリカ教会の貢献は、他国のそれと比較してもかなりの比重を占めており、その影響力は今なお衰えていないと筆者は考えているからである。

「キリスト教原理主義」等々の用語に内包される誤解と混乱の現状を次章では紹介する。そして、それらが生じた原因と歴史的過程を叙述することで、用語を再整理してみたいと思う。

第1章 Evangelicals と Fundamentalism

Evangelicals の起源とその展開

アメリカの歴史において、1776年の建国以来19世紀後半(1870年代)に至るまで、人々は自らを Evangelicals と称していた。これはドイツ語の evangelisch に由来する用語で、当時の人々にとっては、「宗教改革の伝統(聖書の権威とキリストの十字架による罪のあがない)」を遵守して生きていることの簡潔な表明であった。つまり Evangelicals とは、プロテスタント全般を意味する一般的な用語であった³。

多くの人々が Evangelicals という言葉を知り、これが市民権を得たのは、前述の時代から100年後の1976年である。この年、ジェームズ・アール・カーター・ジュニアは第39代合衆国大統領となった。彼は民主党内の予備選挙の時から、新生体験(born again)している敬虔なキリスト者であることを憚ることなく語り、自らを「福音派(Evangelicals)」と表明していた。『ニューズ・ウィーク』1976年9月13日号では、彼の生い立ちから現在までの信仰歴が20ページに渡り特集され、「福音派」という用語は、人々の耳目を集めた⁴。ウォーターゲート事件で「大統領職」に対してダーティーなイメージを抱いていたアメリカ国民は、カーター大統領を素朴でクリーンな人柄であると評価し、彼が表明した「福音派」にも肯定的なイメージを抱いていた。

ここで注意しておきたいのは、同じ Evangelicals を称する人々が、異なる二つの時代に存在していたという事実である。19世紀の Evangelicals (プロテスタント教会)、そして1960年代以降の Evangelicals (福音派) である。さらに、Evangelicals という言葉を人々が「発見」したのは、1970年代後半であるという事情も加味しなければならない。マスコミを中心とし、「Evangelicals とは？」

³ 小原克博・中田考・手島勲矢『原理主義から世界の動きが見える—キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』(PHP新書、2006年)106頁

⁴ Peter Goldman, "Sizing Up Carter," *Newsweek*, September 13, 1976, 18-40.

と問い始めたアメリカ人にとって、「Evangelicals」を自称するキリスト者たちがいつの間にか自分たちの周りに存在し、かつ増え広がっていたことは少なからず衝撃であった。彼らは、南北戦争以前に自らを Evangelicals と称していた人々のことを探り当てた。そしてカーター大統領に代表される 1960 年代以降の Evangelicals と、南北戦争以前のプロテスタント教会全般を意味する Evangelicals とを短絡的に結び付け、「100 年前からカーターのような福音派が米国には存在していた」とする誤解を生み出したのである⁵。

Fundamentalism の起源とその展開

一方、Fundamentalism はどうか。この用語の場合も Evangelicals 同様、異なる二つの時代に同じ言葉で一括りにされた人々が存在していた。

1890 年代に端を発する聖書の無謬性をめぐる争いは、次第に各神学校内で大きな論争となっていった。そして聖書批評学を受け入れるか否かをめぐる争いは、長老派教会、バプテスト教会に代表されるメインライン諸教派を真二つに分裂させる事態にまで発展していた⁶。聖書批評学を受容し、従来のプロテスタント教会の教えを人間の手で変革する方向に舵を切った人々は、「モダニスト(modernist)」と呼ばれた。一方、そのような変化を頑なに拒否し、教理的・道徳的に保守的な立場を選択した人々がいた。彼らは 1910 年から 1915 年にかけて、全 12 巻からなる論文・証集『根本的なもの—真実への証 (The Fundamentals: A Testimony to the Truth)』を発刊した。これは全部で 300 万部を超えるベストセラーとなり、アメリカだけでなく、イギリスにも送られた⁷。

1920 年、「世界根本主義協会 (World's Christian Fundamentals Association)」の第一回大会で、『ウォッチマン・エクザミナー』誌の編集長であり、自らも協会

員であったカーティス・ローズは、「根本的な教義のために戦う備えのできている者」という意味を込めて、「Fundamentalist」と自分たちを称した⁸。彼らは確かにモダニストたちを共通の敵とした。しかしこの対立は、決して暴力的なものではなく、むしろ聖書の解釈をめぐる神学的議論であった⁹。

一方 1980 年以降、同じく Fundamentalist と呼ばれた人々が存在した。彼らの母体は福音的なキリスト教会で、一部のテレビ伝道師や牧師たちがこの運動のリーダーとなっていた。彼らは中絶や同性愛などの道徳問題に対して反対を唱え、アメリカを保守的な方向へ修正しようと試みていた。彼らはリベラル化する現状を憂い、これらの要因をキリスト者の宗教的墮落ととらえたのである。そしてこの一連の問題を解決するために、デモや過激な選挙運動を展開することで政治を動かそうとした。時には一部の過激な集団が、中絶手術を施した医師や同性愛者に対して、暴力的制裁を加えたりもした¹⁰。このような過激な言動に訴える人々のことをマスコミは Fundamentalist と呼んだ¹¹。

では、どうしてマスコミは 1980 年代の彼らを Fundamentalist と呼んだのだろうか。それは 1979 年にイスラム革命がイランで発生していたことに端を発する。この革命はイスラムの教えに人々を原点回帰させることを目指していた。1980 年代以降、彼ら頑迷な保守派を支える精神的支柱として、「イスラム原理主義 (Islamic fundamentalism)」という言葉が流布しつつあった。同じ時期に国内外で発生した二つの過激な集団に対して、マスコミは同じ頑迷さを見出したのである。結果、政治化した保守的キリスト教徒たちを彼らは Fundamentalist と名付け、侮蔑的な意味合いをそこに込めた¹²。

ここに Evangelicals と同様、Fundamentalist にも同じような混乱が生じてしま

⁵ “Southern Baptists: Platform for Presidents,” *Christianity Today*, July 16, 1976, p.998.

⁶ この一連の論争に関する詳細は、以下の文献を参照のこと。

George Marsden, *Fundamentalism and American Culture*, second edition, (Oxford: Oxford University press, 2006 [2008]).

Joel Carpenter, ed., *Fundamentalist Versus Modernist the Debates between John Roach Straton and Charles Potter*, (New York: Garland Publishing, 1998).

⁷ Ernest Sandeen, *The Roots of Fundamentalism: British and American Millenarianism 1800-1930*, (Grand Rapids, Mich.: Baker Book House, 1970), p.198.

⁸ Curtis Lee Laws, “Convention Side Lights,” *Watchman Examiner*, VIII, July 1, 1920, 834. See Marsden, *American Culture*, p.159.

⁹ 森孝一「福音派がキリスト教原理主義者か？」日本政治学会 2005 年度研究会、分科会 16 「アメリカの政治と宗教」2005 年 10 月 2 日発表。

¹⁰ マーク・ユルゲンスマイヤー『グローバル時代の宗教とテロリズム いま、なぜ神の名で人の命が奪われるか』古賀林 幸、櫻井元雄訳、(明石書店、2003 年) 第二章「キリストの兵士たち」参照。

¹¹ 森孝一、前掲研究発表。小原『原理主義から世界の動きが見える』142 頁

¹² 小原、前掲書。

った。1920年代の Fundamentalist は聖書の中身を精査する神学論争に関与した人々であり、自らの立場に誇りと自信を持った人々が、自分たちを指し示すために用いた名称である。一方、1980年代の Fundamentalist はアメリカの道徳的問題に対して、政治的力を用いて解決しようと行動した人々である。しかし名称はマスコミのある種「レッテル貼り」によって生み出されたといっている。そして多くの人は、1980年代の Fundamentalist のような過激で頑迷な人々が100年ほど前からすでにアメリカ社会に存在していた、と誤解してしまったのである。

Fundamentalism と Evangelicalism をめぐるさらなる混迷

Evangelicals と Fundamentalist は、各々異なる二つの時代に別々の特質を持って存在していたが、この違いが峻別されることなく研究者やマスコミに乱用されてきたことは、前述した通りである。しかしこれをさらに混迷へと陥れてしまう現象が生まれてきた。

1980年以降に政治化した保守的キリスト教徒たちは、Fundamentalist と揶揄されることを嫌った。そして彼らは外部からのレッテル貼りを否定し、自らを Evangelicals と宣言したのである。例えば、「宗教右派 (Religious Right)」と呼ばれ、Fundamentalist の代表的人物であったジェリー・ファルウェルは、Evangelicals の教会に対し「同じ福音的教義に立つ兄弟たち (our evangelical brethren)」と呼びかけ、「私たちは皆さんと同じだ。聖書を信じる兄弟として、キリストを愛している者として、私たちを受け入れてほしい。」と訴えた¹³。

こうして、1980年代以降の Fundamentalist と、カーター大統領誕生以降に注目を集めた Evangelicals は、その境界線が薄められ、いつしか一体と見られるようになっていった。両者が同じ用語で自らを語りだしたとき、人々は1960年代以降の Evangelicals すべてを、時代遅れで偏った聖書理解に基づき、政治的な手段に訴えてでも自分たちの主張を押し通そうとする Fundamentalist だと思いつまむようになったのである。

¹³ Jerry Falwell, Ed Dobson and Hindson, eds, *The Fundamentalist Phenomenon: The Resurgence of Conservative Christianity*, (Doubleday, 1981), p.223.

英語圏の研究者の間でもこのような「ねじれ現象」が起こっていたのであるから、ましてや日本の研究者、マスコミにおいては、さらにこのねじれ度は激しいものとなったことは想像に難くない。前節でみたように、Evangelicals と Fundamentalist は共に19世紀から現代まで一貫して存在しているという誤解を受けるようになった。両者は1980年代に同義であると見なされ、ファルウェルらに代表される集団一頑迷で奇異なキリスト信者たちが建国以来ずっとアメリカには存在し続けてきた、と誤解されるようになっていった。さらにここに訳語の問題が絡んでくる。

1920年代にモダニストと戦った人々が自称 Fundamentalist であったことから、日本の研究者はこれを1980年代の Fundamentalist と区別せず、「Fundamentalist = 原理主義者」と固定化し、平板化してしまったのである。一方、研究者の訳語に追従したマスコミは、ファルウェルらが自らを Evangelicals と表現していたことを踏まえ、「Evangelicals (福音派) = Fundamentalist (原理主義者)」とみなした。そして日本人研究者とマスコミは、「原理主義者」でありその精神的支柱に聖書の教理を据えている「福音派」を統合する用語として、「キリスト教原理主義 (者)」を創出したのである。そして曖昧なイメージをまとったこの言葉だけが独り歩きを始めてしまった¹⁴。

このような混迷を避けるために

以上、Evangelicals と Fundamentalist をめぐる誤解と混迷の過程をひもといてきた。ではこのような誤解を避け、混迷した状態から抜け出るためには、一体どうしたらいいのであろうか。

少なくとも、19世紀末までの Evangelicals と1960年代以降の Evangelicals、そして1920年代の Fundamentalist と1980年代の Fundamentalist をはっきりと分

¹⁴ 代表的な書籍は、以下の2冊を参照。

スーザン・ジョージ『アメリカはキリスト教原理主義・新保守主義に、いかに乗っ取られたのか?』森田成也・大屋定晴・中村好孝訳、(作品社、2008年)。原題は *Hijacking America: How the Secular and Religious Right Changed What Americans Think* である。どこにも「キリスト教原理主義」に相当する言葉はない。坪内隆彦『キリスト教原理主義のアメリカ』(亜紀書房、1997年)。